

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200992		
法人名	株式会社 レナール		
事業所名	グループホーム オアシスことしば		
所在地	山口県 宇部市 寿町 三丁目 2-5		
自己評価作成日	平成28年4月30日	評価結果市町受理日	平成28年11月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、複合施設の2階に位置している。宇部市の中心地にありながら、窓からは公園で遊ぶ子ども達の姿や四季の移り変わりを感じられる自然を眺めることが出来る。近くに琴芝駅があり、電車や車、人の往来を身近に感じながら生活されている。車で5～10分程度の場所にショッピングセンターが種々あり、生活用品や食料品などを利用者様と買いに出かけている。市民館や常盤公園なども近く、参加出来る催し物や季節によって咲く花々を見学に出かけている。施設内では、他部署の利用者やスタッフとも交流があり、施設全体で利用者を支える体制が出来ている。医療に関しては母体病院Drによる月1度の訪問診療、隣接病院の緊急時の受け入れ、月2回の訪問看護、及び24時間オンコール体制など利用者の方々が安心して生活できる体制が整っている。スタッフは、『その人らしく、楽しく、ゆったりと安心して』の理念をもとに日々の支援をおこなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の関わりのなかでの利用者の言葉や様子、行動を経過記録に記録されて思いや意向の把握に努められ、好みの服装を本人が選ばれたり、好きな飲み物を選ばれたり、外出したい利用者には、職員がゆっくり寄り添って、会話をされながら一緒に外出されるなど、「その人らしく楽しくゆったりと安心して」という理念を職員全員が常に意識され、利用者の今までの暮らしを大切にされて、本人のペースでゆったりと過ごせるよう支援されています。趣味の本を読まれたり、皇室写真集を見る、歌を歌う、体操、熱帯魚の餌やりや花づくり、個別での買い物、編み物など、利用者のできることやしたいことを活かされ、楽しみごとや活躍できる場面づくりをされて、張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援しておられます。食事は、法人からの配食の利用されている他、週1回の昼食づくりでは、利用者が下ごしらえや盛り付け、テーブル拭き、配膳、下膳、後片付けなどを職員と一緒にされて、食事が楽しみなものになるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者の交代に合わせて、職員全体で、新しく理念を作成しています。事業所の見える場所に掲示して常に意識して日頃のケアにつなげるように取り組んでいます。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、ケアカンファレンス時に、理念を確認して共有し、利用者の今までの暮らしを大切に自分のペースでゆったりと過ごせるよう、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の地域の特性を活かして、日常の散歩での近隣の方との交流があります。また事業所主催の納涼祭や施設内併設のデイサービスへ来られる地域の方やボランティアの方とも交流があります。	自治会に加入し、法人の複合施設内で開催している納涼祭で、利用者は近所の人やボランティアと交流している他、デイサービスの行事(紙芝居、クイズ、歌、踊り、銭太鼓)に参加したり、合同誕生会に来訪しているボランティア(コーラス、マンドリン演奏、マジシャン、フオークダンス)と交流している。看護大学生の実習を受け入れている。事業所周辺の散歩に出かけて近所の人と挨拶を交わしてはいる。日常的な地域との交流までには至っていない。	・日常的な地域との交流
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居者の方への支援を中心にして、施設の見学や申し込みの方々に対しての相談に応じています。また地域の学校からの実習を受け入れています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員の理解を深めるため、カンファレンスで議題として取り上げ、取り組んでもらっています。自身のケアを振り返ることにつながっています。	各ユニットリーダーが職員に評価の意義について説明し、1ユニットは職員をグループに分けて自己評価の項目を分担して話し合い、ユニットリーダーがまとめている。1ユニットは、各常勤職員にすべての自己評価項目に記入してもらい、ユニットリーダーがまとめている。各ユニットごとのまとめを管理者がまとめている。評価を通して、地震や水害を含めた災害時における地域との協力体制の構築について検討しているが、評価を活かして具体的な改善に取り組むまでには至っていない。	・評価の意義の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告、活動内容とともに外部評価の取り組みも報告しています。参加者からは意見を伺う時間を設けており、毎回全員より感想や、質問などいただき、サービスの向上に活かしています。	メンバーは、家族、市担当課職員、民生委員、自治会長で、会議は2か月に1回開催している。利用者の状況報告、行事報告、外部評価への取組状況等について報告して、意見交換している。参加者からの意見や助言等をサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で担当者の方にご参加頂き状況報告をし、担当者からは状況提供を頂いている。又、職員研修や家族会での学習会には講師として協力を頂いています。	市担当者とは、運営推進会議の他、電話や書類提出時に直接出向いて、相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。職員は、市主催の出前講座を活用し、成年後見制度や権利擁護について学習している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で身体拘束の対象となる具体的な行為を理解するとともに、日常の言葉や態度に注意を払うように取り組んでいます。外出傾向のある利用者には、見守りを工夫して拘束のないケアに取り組んでいます。時間帯によって短時間の施錠を行っています。	職員は、内部研修で高齢者虐待防止について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて、気になる場合には管理者が指導し、職員間同士でも注意し合っている。玄関は時間帯によって施錠しているが、外に出たい利用者には、ゆっくり寄り添って、会話をしながら、一緒に外出しているなど、支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修で虐待防止関連法について学んでいます。特に心理的虐待につながる不適切なケアを見過ごさず注意しあうことで虐待の防止に努めています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で市の出前講座を利用して学ぶ機会を持っています。今は必要性のある利用者はいませんが今後必要となる制度なので参考になっています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ゆっくりと丁寧に説明しながら不安や質問にその都度答えながら進めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けて受付体制を整えています。家族からの意見や要望は、来訪時や運営推進会議などで気軽に話していただけるように話しやすい雰囲気づくりに配慮しています。	相談や苦情の受付体制、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。面会時や運営推進会議出席時、年1回の家族会、ケアプラン作成時、電話、メールで家族からの意見や要望を聞いている。利用者の日常の様子を撮ったDVDを送付して、家族からの意見が出やすい関係づくりに努めている。ケアに関する要望は、その都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の気づきや意見、要望をうけて、ケア会議や申し送りノートを活用して情報を共有し、意見をまとめて運営側にも働きかけて、改善を図っておりサービスに反映させています。	月1回のケア会議や各ユニット会議で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。職員の意見や提案を集約し、月1回開催している法人の幹部会議で報告し、検討するというシステムをとっている。ペーパータオルから手指乾燥機への変更等への意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握しているが、現場の現状を熟知してしているわけではない。夜勤帯の勤務時間が18時間と長く、改善を求めているが今のところ改善できていません。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外研修参加への機会があり、学びを重ねる事で意識の向上もみられる。	外部研修は、情報を職員に伝え、職員の経験や段階に応じ、勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命報告書を提出し、職員間で供覧している。法人研修(介護保険、非常災害時の対応、身体拘束、認知症、透析など)は2カ月に1回開催し、希望する職員が受講している。内部研修は、計画的な実施をしていない。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に第三者委員として、他グループホーム管理者に加わってもらい意見交換を行っています。グループホーム連絡協議会の勉強会にも出席し、他施設の職員さん達との交流を図っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いをゆっくりとうかがい、分かりやすい言葉や、態度で接して関係づくりに努めています。また、ご家族に、本人のこれまでの生活や困りごとをお聞きして、初期の関係づくりにご協力をいただいています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後のご家族の不安や、要望をゆっくりとうかがい、苑での対応などを説明させていただいています。お話ししやすい雰囲気づくりでご家族が思いを出しやすいように心がけています。		
18 27		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、必要な支援がグループホームであるかの見極めをして、他の支援も含めて情報提供をしています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活の中で、調理や、洗濯、掃除などを共に行い、工夫や知恵を伺いながらできる事をしていただくことで支えあう関係を築いています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来苑時やお電話で本人の思いをご家族に伝えたり、コミュニケーションの橋渡しを支援しています。またご家族からもホームに対する本人の思いを伺うことで共に支えていく関係を築いています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の行事へのご案内や、一緒に参加出来る機会を増やすなどして、その関係性や絆が強くなるように関わらせて頂いています。	家族の面会、親せきの人や友人、近所の方の来訪がある他、電話の取次ぎや手紙、はがきのやり取りなどの支援をしている。利用者の希望で、買物や墓参りに行ったり、ドライブで自宅の周辺や琴崎八幡宮の参拝等に出かけている。家族の協力を得て、法事への出席、墓参り、外食、盆や正月の一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や、外出時のグループなどは、関係性を配慮した上で調整しています。それにより、自然に助け合う関係性がうまれたり、絆を深めるきっかけになる様な支援を心がけています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居された方々のご家族と、出来る限りその後の様子についてメールを通して連絡したり、入られた施設への訪問も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者本人やご家族の思いや希望をくみ取る努力をしながら、ニーズの把握に努めています。困難な場合は関係者からも情報を得られるよう心がけています。	入居時のフェースシートを活用している他、日常の関わりの中での利用者の言葉や行動を経過記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合には、職員間で話し合い、本人本位で検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や、日々の会話の中からこれまでの生活の場面のエピソードを記録に残す事で利用者理解を深め、職員間で情報の共有化に努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や健康状態、心の変化を記録や業務日誌で確認する事は勿論、職員の気付きや、介護の力量も含め情報を共有することで補いながら現状の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別記録やケアカンファレンスでの意見交換、家族の訪問時などから情報を頂き、ご利用者の生活の広がりへと繋げていけるようなプラン作りを心がけています。	月1回、ケアカンファレンスを開催し、個別記録やセンター方式の情報、本人や家族の要望、主治医や訪問看護師、理学療法士の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3カ月毎にモニタリングを実施し、6か月毎に見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員で個別記録の記入、確認を行いながら常に情報を共有し、実践や介護計画の見直しをしています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の日々の変化に対応できるように、日頃から他のサービスの情報も得るよう心がけています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体の方々の訪問や、ご近所の方々、保育園、小学校との交流も図りふれあいに努めています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医が継続できるように支援しています。必要に応じて情報を交換して他科への適切な受診につなげられるよう支援しています。	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関がかかりつけ医となっている。協力医療機関からは月1回の往診がある。その他の医療機関へは家族の協力を得て受診の支援をしている。月1回の訪問歯科診療の受診や月2回の訪問看護婦の健康管理を受けている。受診結果は、家族に電話や面会時に報告をしている。協力医療機関とは、緊急時や夜間、休日など24時間のオンコール体制で連携しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師による定期的な訪問に加え、24時間体制での相談受付、また同施設内(他部署の)看護師にも相談できる関係作りが出来ており、利用者の健康管理の手助けをしてもらっています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院とホーム間で情報交換を行っています。入院時にはできるだけ面会に伺い、医師や看護師との関係作りにも努めています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や、ケアプランの説明時、また遠方の家族の方には訪問時にこのホームで出来る範囲のケアの説明をさせて頂き、その方の状態に応じて他施設の見学や申込み等の支援を行います。	契約時に、重度化や見取りに関する指針を基に、事業所でできる対応について家族に説明している。重度化した場合には、利用者や家族の意向をふまえた上で、かかりつけ医と相談し、入所施設や医療機関への移設を含めて方針を決めて、全員で共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書の事案についてケアカンファレンス等で検討しています。また、緊急時対応の訓練を施設内研修や外部研修に参加して習得に努めています。	発生時は、ヒヤリハット・事故報告書に記録し、翌日の朝礼で確認し、申し送りノートに記録して回覧している。月1回のカンファレンスで再度話し合い、再発防止に取り組んでいる。事故発生への対応については、法人研修を受講しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を全館で実施しています。それを受けて施設内研修で実施後の反省を踏まえて実践力がつけられるような体制づくりもしています。運営推進会議では自治会長さんに意見を伺い地域との連携に努めています。	年2回(消防署の協力1回)、法人施設全館で昼夜間の火災を想定した通報、消火、避難訓練、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。水、乾パンの備蓄をしている。運営推進会議で災害時の協力体制について話し合っているが、地域の協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けや、失禁時の対応では、他の利用者に気づかれないように配慮しています。また人生の先輩として敬意を払った言葉がけと対応を心掛け、感謝の気持ちをもって接しています。	職員は法人研修で学び、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに注意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や散歩などゆっくりと話ができる場面を大切にし、本人の思いをお聞きしています。また飲み物の好みや、入浴の順番、好きなテレビ番組やレクリエーションの選択など自己決定を働きかけています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや希望を聞きながらその人らしい暮らしのペースを大切に支援しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服装を本人が選択されています。状況に応じて選択を支援したり助言もしています。愛用の化粧品や好みの髪型の継続を家族や出張美容院の協力で支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理や、盛り付け、片付けや、お盆拭きなど、それぞれ得意な事やできる事を分担して、職員と一緒にを行っています。四季折々の食材や行事ごとのメニューで食べる事への楽しみをもっといただいています。	法人からの配食を利用し、汁物とご飯は事業所で調理している。週1回の昼食づくりでは、利用者は、下ごしらえや盛りつけ、テーブル拭き、配膳、下膳、後片付けなどできることを職員と一緒にに行っている。月2回の行事食(寿司や刺身等、誕生日のケーキづくり、お花見弁当を持っての外出、お茶会(抹茶)など、食事が楽しみなものになるよう工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水運摂取量を記録して健康状態の把握に努めています。一人ひとりの嗜好や習慣、能力に応じて食事の形態や提供時間、提供回数を変えて支援しています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、実施を心がけています。その時の気分や状態に応じて、また、ご本人の能力に合わせた声掛け、見守り、介助を行っています。義歯は毎晩洗浄剤に浸けるなどして清潔保持に努めています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用してパターンを把握して、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。一人ひとりの力や、気持ちに配慮した排泄用品を選択しています。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状況を把握して、水分補給や体操や散歩などの運動で予防に取り組んでいます。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に合わせて、時間や回数、湯温などの好みにも配慮して、ゆっくりと入浴が楽しめるように心がけています。状況に応じてシャワー浴や清拭、足浴などでの対応もしています。	入浴は毎日、10時30分から11時までと13時30分から17時までの間可能で、利用者の希望に合わせて、ゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない人には無理強いせず、職員の交代や入浴時間帯を変更したり、声かけの工夫をし支援をしている。利用者の状態に合わせて、シャワー浴、足浴、清拭などで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠の状態を把握して、状況に応じて休息を勧めたり、生活のリズムを整えるために活動に参加してもらうなど支援しています。また、本人の生活習慣に合わせて、昼寝や就寝時間なども自由に選択していただいています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬には二重チェックを行い、内服も飲み込まれるまで確認を行っています。医師の指示や、処方などはその都度、申し送りノートや記録で情報を共有し、状態や症状に変化があった時には医師に報告して指示を仰いでいます。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前までの生活状況や趣味、特技などを把握し日々の生活の中で得意分野で活躍できる場づくりを心がけ、一人ひとりが生活の主人公となれるよう支援しています。	新聞や雑誌、趣味の本を読む、皇室写真集を見る、テレビの視聴、ラジオを聞く、山口弁ラジオ体操、タオル体操、ストレッチ、ダンベル体操、編み物、ぬり絵、貼り絵、壁画づくり、習字、トランプ、お手玉、カルタ、すごろく、風船バレー、歌を歌う、数字合わせ、計算ドリル、漢字ドリル、しりとり、ジェンガ、食事の準備、食事づくり、後片付け、花づくり、草取り、熱帯魚の餌やり、個別の買物など、利用者のできること、したいことを活かして、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の要望を聴きながら、散歩やドライブ又、お買い物に出かけています。季節を感じていただける様な花々の見学、催し物への参加も出来る様、ご家族の協力もお願いしながら外出の支援をしています。	事業所周辺の散歩やスーパーでの買物、花見(桜、菖蒲、バラ、紫陽花、コスモス、紅葉など)、ドライブ(自宅周辺、湾岸道路、宇部空港、北向き地藏、常盤公園、竜王山、文化会館など)、初詣、家族の協力を得ての一時帰宅や買物、外食など戸外に出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人に必要な生活用品など個別に同行して買いに出かけている事が多いが、週に1度近くのコンビニエンスストアが出張販売に来てくれるようになり、ご自分の好きなお菓子などを購入できるようになりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①年賀状の季節になるとハガキ購入のご希望が多くなります。また、遠方のご家族から絵葉書やお手紙が届くとお返事を書くなどのやり取りもあり、その時々支援をしています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に応じた壁面飾りをしたり、利用者さんの作品を廊下に展示するなどして共用の空間を通して利用者さん同士の会話のきっかけにもなっているようです。廊下や食堂のカーテンを明るさに応じて自主的に開閉されるなどご自分たちで心地よい空間になるよう動かれています。	ガラス窓から公園の木々の緑を眺めることができる共用リビングには、大きな机やいす、ソファが配置してあり、明るく落ち着いた空間となっている。壁面には、利用者の作品や季節の飾り物を飾り、温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホール内や廊下にソファを置き、ご自分の席意外にも思い思いの場所で自由に過ごしておられます。体調やその時の気分にも配慮し、午前、午後の活動は自主参加とさせて頂いています。。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や、見学に来られた方には、ここはご自分の家となること、使い慣れた家具や思い出の品を置いてご本人らしい居心地のよい居室となるようご提案させて頂いています。ご希望により模様替え等の支援もしています。	ダンス、衣装ケース、机、椅子、テレビ、新聞、時計、カレンダー、鏡、縫いぐるみ、自作の編み物、仏壇など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族の写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の確認が難しい方の為、全室扉の分かり易い位置に名前を明示させて頂いています。ご自分で名前を確認して間違えずに居室に戻れるよう支援をしています。それぞれ自室にカレンダーと時計を置かれ、月日と時間の確認が出来るように工夫をされています。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームオアシスことしば

作成日: 平成 28 年 10 月 31 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	災害時における避難体制と地域との協力体制の構築	災害時に昼夜を問わず利用者を安全に避難できる体制と方法を全職員が身につけ、地域との連携体制を構築する。	当グループホームは複合施設の2階に位置しており、合同の避難訓練等での連携、協力体制を強化しつつ近隣住民の方々との連携体制も図っていく必要がある。日頃からの広報活動や交流を通して当施設への理解と協力体制の構築を目指していく。	1年
2	2	日常的な地域との交流	地域の行事で参加可能な行事があれば、積極的に参加させていただくことで当施設の存在をより多くの地域の方々に認知していただきながら、利用者様と地域の方々との交流を図る。	散歩途中の保育園との交流を積極的に呼びかける。地域の文化祭へ、日頃制作した作品などを展示させていただき、当施設を地域の多くの方々に広く認知していただけるような取り組みを行なう。	1年
3	4	地域メンバーの拡大	当施設をより身近に認知していただけるよう協力者を増やす。	運営推進会議などの参加でお世話になった歴代の自治会長の方々にも、行事などを通して引き続き施設とのかかわりを呼びかけていく。	1年
4	15	全職員が実践力を身に付けるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	施設全体で行なう施設内研修及び、グループホーム独自に行なう職場内研修も実施し、応急手当や初期対応の訓練などを行なう。	看護師のいない職場であるグループホームで介護職にできる応急手当や誤嚥などの時の初期対応について全職員が慌てず対応できるよう日頃から訓練を行なう。また、日頃から起こりやすいインシデントやアクシデント報告を振り返り、リスクマネジメント学習にも力をいれていく。	1年
5	9	内部研修の充実	新しいスタッフが戦力として長く働けるよう、研修を充実させる。ユニット間で協力して内容を充実していく。	介護技術の習得。基礎を踏まえて利用者に応じた応用。一人ひとりの対応について、情報の共有と実践報告をカンファレンスにておこなう。両ユニット間でテーマを決めて研修会を行なう。外部研修の報告会の実施。	1年
6	3	評価の意義の理解と活用	評価を基に、積極的に地域とのつながりを模索していく。	グループホームだけでなく、施設全体の問題として災害時だけでなくいろんな行事を通して地域との結びつきを強化していく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。